

令和3年11月26日

大阪経済記者クラブ会員各位

(同時資料配布：金沢・富山・福井・京都・神戸の各経済記者クラブ、大津市政記者クラブ)

「北陸・関西連携会議」第9回会頭会合の開催及び取材方お願い

【お問合せ先】大阪商工会議所 地域振興部（高津・西田）
TEL：06-6944-6323

- 金沢・富山・福井・京都・神戸・大津・大阪の7商工会議所は、「北陸・関西連携会議」の会頭会合を11月30日（火）に金沢市（料理旅館 金沢茶屋）で開催する。
- 同会議は、北陸新幹線の金沢開業に際して、京都・神戸・大阪の3商工会議所から働きかけて平成27年7月に設置。北陸・関西の一層の連携強化や、北陸新幹線の早期整備に向け、意見交換や共同アピールの採択等を行なってきた。
- 当日は、「北陸新幹線の早期全線開業の実現に向けた決議」を採択する予定。
※「北陸新幹線の早期全線開業の実現に向けた決議」は、採択後、会場および各地の記者クラブにて配布。

1. 開催概要

【日時】 令和3年11月30日（火）11：30～13：00

【場所】 料理旅館 金沢茶屋 本館2階「楽の間」（金沢市本町2-17-21）

【内容】

取材
可能

- ①開会挨拶 大阪商工会議所 尾崎裕会頭
- ②開催地挨拶 金沢商工会議所 安宅建樹会頭
- ③代表幹事の選任について
- ④北陸・関西連携事業の進捗報告
- ⑤北陸新幹線の早期全線開業の実現に向けた決議（案）について
- ⑥講演「北陸新幹線（金沢～敦賀、敦賀～新大阪）の整備状況（仮題）」
＜講師＞独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構
北陸新幹線建設局長 堀口 知巳 氏
- ⑦自由懇談

2. 取材について

- ◆①開会挨拶から④北陸・関西連携事業の進捗報告（11：30～11：50）まで、取材（ペン、カメラ撮り）可能です。取材にあたりましては、資料2「取材要領」をご覧ください。
- ◆会合終了後（13：00頃）、本館2階ロビーにて、代表幹事2名、開催地会頭による囲み取材を10分程度行います。
- ◆ご取材いただける場合は、密集回避の観点から、11月29日（月）までに、資料1「取材申込書」にご記入の上、E-Mail（chishin@osaka.cci.or.jp）もしくはFAX（06-6944-6330）にてお申込みください。

以上

<添付資料>

- ・（資料1）取材申込書
- ・（資料2）取材要領
- ・（資料3）出席予定者名簿
- ・（資料4）北陸・関西連携会議の概要

取材申込書

大阪商工会議所 地域振興部 宛

Mail : chishin@osaka.cci.or.jp

FAX : 06-6944-6330

「北陸・関西連携会議」第9回会頭会合

会社名	
ご所属・お名前	
御同行者様の人数	
ご連絡先（電話）	
ご連絡先（Mail）	
カメラ ※カメラ有りの場合、【 】内に ○をご記入ください	【 】ムービー / 【 】スチール

令和3年11月26日

「北陸・関西連携会議」第9回会頭会合 取材要領

1. 日 時 令和3年11月30日(火) 11:30～13:00
2. 場 所 料理旅館 金沢茶屋 本館2階「楽の間」(金沢市本町2-17-21)
※会頭会合終了後(13時00分～13時10分)、代表幹事(2名)、開催地会頭による囲み取材を行います。
3. 内 容 ①開会挨拶 大阪商工会議所 尾崎裕会頭
②開催地挨拶 金沢商工会議所 安宅建樹会頭
③代表幹事の選任について
④北陸・関西連携事業の進捗報告
⑤北陸新幹線の早期全線開業の実現に向けた決議(案)について
⑥講演「北陸新幹線(金沢～敦賀、敦賀～新大阪)の整備状況(仮題)」
＜講師＞独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構
北陸新幹線建設局長 堀口 知巳 氏
⑦自由懇談
4. 出席者
資料3をご参照
5. 取材に関して
 - 「①開会挨拶」から「④北陸・関西連携事業の進捗報告」(11:30～11:50)まで、取材(ペン、カメラ撮り)可能です。(音声分配器の用意はありません)
 - 取材受付は、11:00～、本館2階「楽の間」前で行います。受付で名刺を1枚申し受けますので、ご準備のほど、よろしくお願いいたします。カメラスタッフなど複数名で取材される場合は、代表者1名の名刺をご用意ください。
 - 取材に際しては、自社腕章等を見えやすいところに必ず着用してください。
 - 取材中は担当者の指示、誘導に従っていただきますようお願いします。
 - 「④北陸・関西連携事業の進捗報告」終了後、担当者より声がけさせていただきますので、速やかに会場からのご退席をお願いします。
 - 会頭会合終了後、大阪商工会議所 尾崎会頭、福井商工会議所 八木誠一郎会頭、金沢商工会議所 安宅会頭による囲み取材(13時00分～13時10分予定)を、本館2階ロビーで行います。
 - 囲み取材の際も音声分配器の用意はありません。
 - 新型コロナウイルス感染の予防及び拡大防止のため、取材に際しては、受付時の消毒液による手指の消毒を行っていただき、また、マスクの着用についてご協力よろしくお願いいたします。発熱等の症状がある方は、取材を控えていただきますようお願いします。

以上

北陸・関西連携会議 第9回会頭会合 出席予定者名簿

日 時：令和3年11月30日（火）11：30～13：00

場 所：料理旅館 金沢茶屋 本館2階「楽の間」（金沢市本町2-17-21）

（敬称略・順不同）

【講 師】

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 北陸新幹線建設局長 堀口 知巳

【メンバー】

金沢商工会議所	会 頭	安宅 建樹	（株式会社北國銀行相談役）
	専務理事	普赤 清幸	
富山商工会議所	会 頭	高木 繁雄	（株式会社北陸銀行特別参与）
	専務理事	西岡 秀次	
福井商工会議所	会 頭	八木 誠一郎	（フクビ化学工業株式会社代表取締役社長）
	専務理事	高見 和宏	
京都商工会議所	副 会 頭	田中 誠二	（株式会社キャリアール・インターナショナル 代表取締役社長）
	専務理事	兒島 宏尚	
神戸商工会議所	会 頭	家次 恒	（シスメックス株式会社 代表取締役会長兼社長CEO）
	専務理事	中林 志郎	
大津商工会議所	会 頭	大道 良夫	（株式会社滋賀銀行相談役）
	専務理事	廣瀬 年昭	
大阪商工会議所	会 頭	尾崎 裕	（大阪ガス株式会社相談役）
	専務理事	宮城 勉	

【オブザーバー】

西日本旅客鉄道株式会社 代表取締役社長 長谷川 一明

理事金沢支社長 漆原 健

以 上

「北陸・関西連携会議」概要

1. 設立趣旨

- 北陸と関西は、豊富な地域資源を有し、人的交流も盛んである。しかし、オリンピック・パラリンピック東京大会の開催、リニア中央新幹線の東京－名古屋間先行着工、北陸新幹線の金沢延伸といった動きを踏まえれば、今、北陸・関西両地域が連携し、観光客増大やビジネス交流の促進に取り組むことは、地方創生の模範例を示すことになる。
- そこで、北陸・関西の商工会議所が連携して、観光振興はもとより、幅広いビジネス交流事業を実施するとともに、そのために必要な北陸新幹線の大阪延伸の早期実現策等を検討し、必要に応じて、共同提言の取りまとめ等を行う。

2. 設置日

平成27年7月17日

3. 組織概要

- 金沢・富山・福井・京都・神戸・大津・大阪の7商工会議所
 ※大津商工会議所は、平成27年12月の第2回会合から参加
 - 事務局：大阪商工会議所
 - 必要に応じ、両地域の他の商工会議所にも呼び掛ける
- 会頭による会合を開催し、北陸・関西の連携を促進する。
- 専務理事による会合を開催し、必要事項を決定する。
- 各種連携事業を具体化する際には、事務局担当者による会合を適宜開催する。
- 必要に応じ、西日本旅客鉄道株式会社の「関西・北陸交流会」とも連携する。

4. 開催実績

平成27年	7月17日	発足
	9月2日	会頭会合（第1回：金沢）
	9月16日	専務理事会合
	11月19日	専務理事会合
	12月21日	会頭会合（第2回：福井）
平成28年	2月18日	専務理事会合
	4月25日	会頭会合（第3回：神戸）
	10月24日	会頭会合（第4回：富山）
平成29年	5月30日	会頭会合（第5回：京都）
	12月13日	専務理事会合
平成30年	4月18日	専務理事会合
	5月9日	会頭会合（第6回：大阪）
令和元年	9月18日	専務理事会合
	10月4日	会頭会合（第7回：大津）
令和2年	11月13日	専務理事会合
	12月4日	会頭会合（第8回：オンライン）
令和3年	11月17日	専務理事会合
	11月30日	会頭会合（第9回：金沢）※予定

5. 申し合わせ（第1回会頭会合〔平成27年9月2日〕にて採択）

北陸・関西の一層の連携強化に向けた申し合わせ ～北陸・関西は地方創生の先導役に～

地方創生が大きな政策課題となる中、我々6商工会議所会頭は、本日の「北陸・関西連携会議」において、両地域一体となった力強い成長実現に向け、一層緊密に連携することで合意した。

まずは、下記の観光振興、インフラ整備、ビジネス交流事業に精力的に取り組んでいくことを申し合わせる。

記

1. 国内外からの観光客増大を一過性に終わらせることなく、さらに北陸・関西への誘客を図るため、広域観光周遊ルートの形成など多様な観光魅力の発掘や相互プロモーションを強化する。
2. 北陸・関西の成長力を高める重要な基幹インフラである北陸新幹線に関し、国や地方自治体等と連携しながら大阪延伸の早期実現を図る。
3. 地方創生の担い手である中小企業の販路開拓、新商品・サービスの開発など、業容拡大を強力にバックアップする。このため、域内企業間のビジネスマッチングに注力する。
4. 市場規模の拡大が期待される新しい産業分野への円滑な参入など、中小企業の成長力強化に向けた支援策を拡充する。このため、各種情報提供に一層力を入れるとともに、域内の企業間連携をサポートする。

以 上